

(別添2)

No.	7
策定年月	令和4年6月
見直し年月	-

麦・大豆産地生産性向上計画 陸前高田市産地 (作成主体:陸前高田市)

1. 麦・大豆の生産性向上・生産強化に向けた方針

陸前高田市は、全耕地に対する水田の割合は約77%、水田での主食米の作付割合が約7割となっており、主食用米の生産が農業生産の柱となっている。

当市としては主食用米品種「たかたのゆめ」のブランド化を目指しているが、近年産地間でのブランド米競争が激しさを増し、一方で少子高齢化、日本人の食の多様化、新型コロナウイルスの流行等を要因に主食用米の国内需要は今後一層減少する見込みである。地域農業の将来を考えれば転換作物への取組みが重要であり、中でも当市を含めた気仙地域での実需があり、現状でも取組む農業者が存在する飼料用米と大豆の生産拡大が当地域においては適切であると考えている。

大豆の生産拡大にあたり、当市は市の全域が中山間地となっており、また東日本大震災の津波浸水により平野部の水田でも内陸に比べ地力は高くないため、ブロックローテーションの取組みが必須と考えられる。そのためには集積された農地を持ち、計画的、集約的かつ効率的に大豆生産に取組むことが必要であるから、農業生産法人を中心に大豆産地づくりを推進していく。

現在、陸前高田市においては、陸前高田市農業再生協議会水田収益力強化ビジョンにより水田フル活用の推進に取り組んでいるが、本計画において、大豆生産性向上・生産拡大に係る取組をより具体化するとともに関係者の連携を強化し、農業の更なる活性化を図っていく。

2. 麦・大豆生産の現状と課題

(1) 需要に応じた生産の現状と課題

大豆は地域の加工業者(しょうゆ、みそ、とうふ)への出荷と農協への集荷が中心である。農協集荷に対する需要への対応はもちろんのこと、震災からの復興が進むにつれ、地域の実需者からの要望数量の増加が見込まれるところ、当市での大豆生産は特定の法人が95%以上担っているのが現状であり、取組者の増もしくは取組者の規模拡大を図る必要がある。

(2) 生産における現状と課題

当地域での大豆の作付は特定の法人が大規模に行っており、作付面積も増加傾向にある。元来市内全域が中山間地であることと東日本大震災の津波浸水により内陸に比べ地力が低いことは否めないが、ブロックローテーションに取組みながらの生産で単収も徐々に増加傾向にある。土壌改良資材等の施用による地力の回復は緩やかと想定されるため、地力の維持にも努めながら効率的な耕作を行うことで、高い単収で安定した生産を目指すことが重要である。

また、ブロックローテーションに取り組むにあたっては、効率的な生産を行うため、より計画的に団地化の取り組みを行う必要がある。

なお令和3年度現在の団地化率は地域全体の作付の55.6%であるが、ブロックローテーションの区分けによって年度により大きく団地化率が変動している。計画的なブロックローテーションにより常時70%程度の団地化となるよう目指す。

(3)実績

① 生産量

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
小麦	-									
大麦	-									
作物計										

作物名	品種名	作付面積の推移(ha)			単収の推移(kg/10a)			生産量(t)		
		令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)	令和元年産	令和2年産	令和3年産(現状)
大豆	一括	19	20	22	128	129	145	23	24	31
作物計		19	20	22	128	129	145	23	24	31

※ 田畑計の数値を記載している場合は、括弧内に田の面積を記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 計画策定時に数値が把握できる直近3年の実績を記載する。麦と大豆で年産が異なっても良い。

※ 年産は必要に応じて適宜書き換えて使用すること。

※ 麦は必ず品種毎に整理すること。（大豆は品種ごとの記載が困難な場合は、一括の記載が可能）

② 団地化

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
小麦		-	-	-	-	-	-	当市での麦の作付はない。
大麦		-	-	-	-	-	-	
作物計		-	-	-	-	-	-	

作物名	品種名	令和元年産		令和2年産		令和3年産(現状)		備考
		団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	団地化面積(ha)	団地化率(%)	
大豆	一括	8	43.2%	13	63.5%	12	55.6%	
作物計		8	-	13	63.5%	12	55.6%	

※ 原則田の数値を記載するが、畑を含んでいる場合は、田の数値を括弧書きで記載すること。

※ 必要に応じて適宜行を追加・削除すること。作付していない作物がある場合は空欄で良い。

※ 団地化率は、団地化面積が当該品目の作付面積に占める割合を指す。現状数値以外は把握できる範囲の記載で良い。

※ 品種毎の記載が困難な場合は、麦全体及び大豆全体の数値のみの記載で良い。

③ 団地化率の計算に用いる団地の基準・考え方

「団地」は、同一作物が作付されており、一連の農作業に支障が生じない2筆以上の隣接する農地とする。
 なお当市は全域中山間地域にあたり、平地に比べ農用地の割合が少ないことから、産地交付金の団地化の基準(県推進メニュー)を準用し、2ha以上の団地面積を用いて団地化率を算出する。

※ 都道府県の団地基準面積値を使用している場合は、その旨記載すること。

※ 都道府県の団地基準面積値と異なる場合は、必ず記載すること。